

# これがオススメ!<sup>高学年向き</sup> 読み聞かせ本

学習指導要領で読み聞かせがすすめられて、読み聞かせについてのたくさんの本が出版されています。また、ブックリストもたくさん出ていますが、さて実際に子どもたちに読もうと思うと、どの本がいいのか、どうやって読んであげたらいいのか、困ってしまいます。「これなら楽しく読み聞かせができるよ」という本と読み方を紹介しましょう。

高学年になると、忙しさに追われ、読み語りをする時間や心の余裕をもつことが難しくなってきました。  
今回は、空き時間を利用してでき、しかも授業とも関連させることができる、イソップのお話を紹介します。  
イソップのお話にはだれでも知っている話が数多くあります。また、イソップ童話とは知らずに読んでいる場合もあります。絵本も多く出版されていますが文章だけでも十分に楽しむことができます。  
国語の授業に「古典」が入ってきました。私は、「イソップのお話」と、「伊曾保物語」のいくつかの作品の読み比べをしました。

「肉をくわえたイヌ」では、子どもたちが「何とまぬけな犬なんだろう」と思っている気持ちが伝わってきました。「ロバと子イヌ」では、主人のロバに対する仕打ちに、一人の男の子が「ひどいな」とぼつり。子どもたちは、短い話の中からも想像を膨らませ、いろいろな反応を見せてくれました。  
イソップのお話には、最後に教訓が書かれています。この教訓は子どもたちにとってもわかりやすく、聞いた後、ほとんどの子が納得顔です。  
どの話を読み語るかは、子どもたちの様子やクラスの雰囲気などで決めます。2、3分でできるので、5時間目の始めや帰りの会などの時に読み語っています。  
紀元前に創られた話を今も読めることに、幸せを感じます。



イソップのお話  
河野与一／編訳  
(岩波書店)